◀巻頭言▶

"新年のご挨拶"

会長・理事 四 方 哲 郎

海陸また海外でご活躍の会員並びに日頃 ご支援頂いております関係先の皆様方に謹 んで新年のご挨拶を申し上げます。

まだまだ注意する必要はありますが、新型コロナ感染症に対する規制が世界的に緩和され、乗組員の交代や上陸、海外出張等がスムーズに行われるようになり、また日本でも昨年5月に感染症法上の位置づけが5類に移行したことで、当協会も総会後の懇親会を4年ぶりに開催しましたし、各地でも親睦会や懇親会が多く再開されております。皆様方におかれましてもすでに忘年会を楽しまれた方も多くおられるのではと思います。

さて、昨年5月30日に会長に就任してから多くの海事関係団体の役員となり、同団体主催の会議、行事等に出席して見識を新たにさせてもらっています。昨年1月よりEEXI規制、CII規制が実施されており2023年の実績に基づくCIIの格付けが間もなく決定されます。また今年1月1日から欧州排出量取引制度の海運への適用が開始されます。用船者との契約によりますが、欧州海域でOff Hire となるトラブルが発生すると船側としてより強く責められる懸念があります。また、EU規則である「Fuel EU Maritime」規制が発効し、2025年1月1日から開始されます。

(Class NK テクニカルインフォーメーション 2023 年 10 月 3 日 TEC-1308 ご参照)

今後、環境規制はますます厳しくなり、新たな燃料を使用する機関への対応も必須となります。当協会の取り組みとして昨年11月22日技術講演会にてダイハツディーゼル株式



会社殿に「4サイクル機関の次世代燃料への取り組み」の講演をしていただき、さらに今年2月にウインターツールガスアンドディーゼルジャパン株式会社殿の講演を予定しております。過去の技術講演会につきましてもホームページに載せておりますのでそちらも是非ご視聴ください。今後も技術誌マリンエンジニアでの情報提供とともに技術講演会を東京及び神戸で開催し、環境規制対応に関する最新技術情報や関係各国・機関・メーカーの取り組みなどをタイムリーに発信してまいります。

20年ほど前のことですが、アラブ首長 国連邦(UAE)のLNG船運航会社の日本連 絡事務所に勤務しておりましたとき、アブ ダビのDAS島に4泊5日で積地作業の研 修に行きました。小さな島に従業員が男ば かり3万人ほど働いており、国の重要施設 ということでパトリオットが配備されてい るという噂でしたが、セキュリティーは厳 しくカメラ付きの携帯は禁止でした。エジ プト人のPort Captain と共にBP Shipping 管理のLNG船、韓国人乗組員のLPG船、 アラブ人もあきれたほどの対応であった中 国人乗組員のコンデンセイト船の積荷研修 は興味深いものでした。滞在中、週に一度 は恐ろしく冷房の効いたゲストハウス(部 屋の冷房を止めても廊下からの冷気で冷え 冷えでした) 横のプールサイドでステーキ パーティーが催されました(当然豚肉、ア ルコールは無)。Port Captain と同席の時 はなるべく宗教・政治の話はしないように していたのですが、『石油・LNG を将来使 わないようにするというのは欧米の陰謀に 違いない』と言い出し、当時は環境問題も そう大きく報道されておらず可能性はある とあいまいに返事をしていました。また、 『日本人はアメリカに原爆を落とされたの に何故アメリカを憎まないのだ』と言われ、 日本の現状と個人的な考え方を伝えようと しましたが考え方については理解してもら えなかったようです。その後は普通の話題 に戻って和やかに食事を終えました。

この原稿を書いている時点でハマスによるイスラエル攻撃があり、イスラエルがガ

ザに侵攻しており、停戦期間がありましたが戦闘が再開しています。紅海では邦船社傭船の自動車船が拿捕されたり、イスラエル系の船舶への攻撃が行われましたが、フーシ派のデータが古くて関係のない船も攻撃を受けたようです。この海域を航行する船の乗組員、ご家族の心配は尽きないと思います。

今後どうなっていくのか見当もつきませんが、お互いの憎しみの根は深いと感じます。

ロシアとウクライナの間の戦争も膠着状態のようです。戦争は環境破壊の最たる原因ですし、人道上の大きな問題を引き起こしています。

今年こそは世界中の紛争が終結し平和な 世界が戻ることを願っております。

最後になりますが会員諸兄及びご家族と 関係各位のご多幸と船舶のご安航を祈念し 新年の挨拶といたします。

